平成28年度「歴史と環境を学ぶ会」の事業報告

7月10日（日）に毎年恒例の「歴史と環境を学ぶ会」を開催しました。

本年度は、徳島県の社寺及び町並みの中から徳島市・鳴門市内の重文を見学し、四国八十八ヶ所の霊場2箇所とその周辺環境との調和を楽しみました。

神戸市役所北側花時計前からバスで出発しました。神戸淡路鳴門自動車道を通って四国へ渡り、午前中は重文の宝庫、丈六寺を見学しました。

宝物館の中でさまざまな重文を拝見したあと、三門前で丈六寺の生い立ちについて講義して頂きました。戦国時代の武将 長宗我部氏に、新海遠江守が騙し討ちされた時の床の血痕が回廊の天井に残されていました。丈六寺は宗教的だけでなく軍事的にも重要視されていたようです。国指定重要文化財の聖観音坐像が修理にだされており、拝見できなかったのが残念です。

石井町へ移動し昼食を終えた後、バスで一宮神社と四国十三番札所の大日寺へ向かいました。一宮神社の本殿は三間社流造で、平成5年に国の重文に指定されています。一宮神社の前には大日寺があり、元々神仏習合の時代には一宮神社と一体化して 阿波国一宮だったようです。

一宮神社 見学後、樹齢約千年余の楠で有名な大麻比古神社へ行きました。この神社は大麻比古大神と猿田彦大神の二柱の神様が祀られています。大麻比古大神は大昔 阿波国を開拓した忌部氏の大祖先の神様で、猿田彦大神は天孫降臨の時 その道案内の役をつとめられた神様です。ご神木の楠は鳴門市の文化財に指定されています。
神社の裏には、第一次世界大戦当時に捕虜生活を過ごしたドイツ兵が、優れた母国の土木技術を生かして造ったドイツ橋があり、今日も日独両国民の架け橋として重要な役割を果たしています。

大麻比古神社 見学後、四国八十八ヶ所霊場の一番札所である霊山寺に行きました。霊山寺は聖武天皇の勅願により行基菩薩が開創され、弘法大師がインドの霊山を和国（日本）に移す意味で「竺和山・霊山寺」と名付けられました。

真夏の暑い中ではありましたが、時間的にもゆとりがあり、皆無事にもどって来れました。天候にも恵まれ、予定通りの見学内容が出来たと思います。最後になりましたが、多くの参加頂いた方々に心から感謝申し上げます。

日時：平成28年7月10日（日） 8：30～18：30

集合：神戸市役所北側花時計前　解散：三宮駅東ラウンドワン前

内容：徳島市・鳴門市内の重文、歴史的文化の跡地とその周辺環境の見学

丈六寺　観音堂・経蔵（旧僧堂）・三門・本堂（元方丈）［重要文化財］

一宮神社　本殿［重要文化財］ ／ 大日寺　第十三番札所

大麻比古神社　大楠［樹齢約千年の楠・鳴門市の天然記念物］

霊山寺　四国八十八カ国一番札所

参加費：会員－5000円 ・ 非会員－6000円

参加人数：会員24名・非会員2名　合計26名

丈六寺　三門

一宮神社

大日寺

大麻比古神社

霊山寺　仁王門

霊山寺　多宝塔

丈六寺　本堂

大麻比古神社　大楠